

担い手通信

JAバンクは地域の担い手を応援します

8

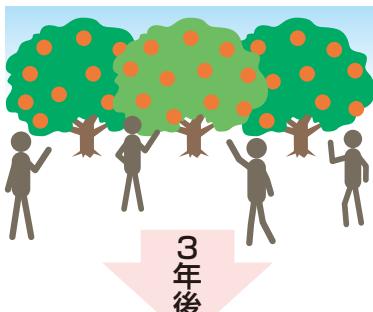
今月の話題

ミカン収量ひとり 三重の高専

Dローン(小型無人飛行機)と人工知能(AI)を活用してミカンの収量を予測するシステム開発に、三重県の鳥羽商船高等専門学校が乗り出しました。ドローンで上空から撮影した園地の画像を基に、AIで木ごとの収量を予測します。

予測の“正答率”は現在7割ですが、今後3年かけ人の目と同じレベルの8割以上に高め、実用化する計画です。毎年の収量調査で必要となる約150人の人手が、このシステムを使えば数人まで減らせるといいます。

御浜町など県内屈指のミカン産地である紀南地域では、極早生品種の出



荷計画に生かすため、生産者が主体となって収穫前の秋口に収量調査を実施。1回の調査につき、生産者や

JJAの営農指導員、普及指導員ら約150人が園地を回るなどしています。多くの人手が必要で負担が大きいことから、同校が県熊野農林事務所、県農業研究所紀南果樹研究室、NTTドコモと連携してシステムの開発を始めました。

AIは、無料で誰でも使えるソフトウェア群を利用します。機械学習の手法の

一つ「ディープラーニング」(深層学習)を活用。ドローンで上空から園地の画像を撮影し、木ごとに収量の予測値や実数と共に学習させました。

今	が	旬	
この	言	葉	

日欧EPA

日欧経済連携協定(日欧EPA)は、日本とEU相互の貿易促進を目的として、幅広く経済的な関係の強化を目指すものとされています。7月17日に署名。国会審議を経て、来年初めにも発効する見通しです。日本は農林水産物のうち82%の関税を撤廃し、焦点となるチーズは大きな自由化を受け入れました。政府は同協定への対策として、生乳の奨励事業や畜産クラスター事業などを通じて国内農業の体质強化を目指すとしています。

農業技術 Pick up

このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

三重県農業研究所在は、大豆圃場（ほじょう）で発生した葉が黄化して、株が萎縮する症状について、カンキツヒメヨコバイの吸汁によって発生することを明らかにしました。大豆の害虫とされる大豆の害虫とされていますが、具体的な被加害そのものによる

カンキツヒメヨコバイは大豆の圃場で普

通に発生する昆虫で、普

いの吸汁によって発生することを明らかにしました。また、これまで、同様の症状は県内の大豆圃場で発生したこともありましたが、原因は不明でした。

今回、明らかとなつたカンキツヒメヨコバイによる症状は、実験の結果、この害虫が媒介するウイルス病によるものではなく、吸汁



カンキツヒメヨコバイ成虫

現地大豆圃場で発生した委縮症状

お問い合わせ先 三重県農業研究所 農産物安全安心研究課 ☎ 0598-42-6360



- ◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
- ◆栽培用ハウス・畜舎など農業用施設の建設資金
- ◆その他農業経営に必要な資金

0円
実質保証料

農業を営むすべての方に

農業経営資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を**5年間軽減**いたします。

JAバンク利子補給制度 3年間と

当JA金利引き下げ 2年間 措置の対象となります。

利子補給および金利引き下げの適用イメージ～変動金利型の場合～

（お借入金利）
変動
金利
年1%

（JAバンク利子補給・
金利引き下げ）
年0.8%

= 実質
年0.2%
5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>
平成30年5月現在

※JAバンク利子補給・
当JA金利引き下げ後の
ご負担金利は0.2%を下
回らないように調整され
ます。

※イメージは実際とは異
なる場合がございます。
詳しくはお近くのJAバン
クまでお問い合わせください。

※JAバンク保証料助成
により、実質保証料が0
円となります。



県内NEWS

(日本農業新聞より)

■三重全域 障害者就労施設 GAP取得を支援 三重県

三重県は障害者就労施設のグローバル農業生産工程管理(GAP)認証取得に向けた支援を始める。7月5、6日には、日本のグローバルGAPの専門家、山野豊氏を講師に招いたセミナーを開催。GAP指導員や障害者就労施設の職員が参加し、基本的な知識について理解を深めた。今後は、8月、11月、12月にセミナーを行い、2019年1月に「三重なばな」での認証取得を目指す。19年2月には、東京都のオтель・ドゥ・ミクニで、GAP認証食材を使用した三重県フェアを開き、県産食材をPRしていく。

(2018/7/11 ワイド1東海)

■JA松阪 あぜ道に誘蛾灯風景を幻想的に

三重県松阪市六根町の「六根環境を考える会」は7月上旬から、地区の水田のあぜ道で誘蛾灯を点灯している。夕方、日が沈む前に点灯し、柔らかな光が浮かぶ昔ながらの幻想的な風景をつくり出している。

誘蛾灯は、光に集まる虫の習性を利用した昔ながらの害虫駆除法。殺虫剤などの普及で今では滅多に見ることがなくなったが、昔ながらの農業の風景を再現しようと、会員の記憶や以前の記録を頼りに5年前に復活させた。珍しい風景を求めて写真を撮りに来る人も多く、夏の風物詩として定着している。

(2018/7/15 エリア東海)

■JA鳥羽志摩

農家女性がカフェ兼直売所開設 JA空き店舗 憩いの場に

三重県JA鳥羽志摩の旧鳥羽支店相差店舗を利用して6月中旬にオープンした、カフェ兼農水産物直売所「千（せん）」が人気を集めている。地元の農水産物を使った食事を楽しもうと、地元住民や観光客らで連日、にぎわいを見せている。不稼働店舗の有効活用や農家の所得向上、地域の活性化を目的にJAが賃借人を募集した。同施設代表の上村佳鶴さん(61)ら調理を担当する4人と、地元農家6戸で構成された「稲穂会」が運営する。

(2018/7/6 ワイド2東海)